雲鷹丸　第15次航 報告　　大正4年7月5日～10月29日

摘 要 航 海 日 誌

大正4年7月5日　品川抜錨、横浜に回航し用炭50屯を搭載し、

7月 6日　品川に帰泊す。

7月 7 8日　糧食品積込に従事す。

7月 9日　丸川技手、岡本・飯沼両練習生、前年度漁撈科３学年生徒淵山貞及漁撈科３学年生徒19名乗船し、練習生中村吉治下船、出帆準備成る。此日午後所長来船、一同に訓示を与へて退船せらる。

7月10日　午前8時半品川抜錨、館山実習用和船２隻を曳て航行し、午後3時半館山に入港す。

7月11日より漁具搭載に従事す。

7月12日　午後生徒の体格検査を行ふ。此日臨時水夫４名を補欠雇入れたり。

7月13日　午前10時抜錨したるも無風の為汽走し、正午八幡岬(注:勝浦の近く)沖に至りて微力なる順風を得、帆走に変ず。是より連日濃霧連続したるも、概して順風なりしを以て、終始霧中号角(注:fog horn)続吹の侭航行す。

航途、金華山沖合にて屡鰹魚群を認めたるも進航、緩に過ぎたる為めか魚群に接近するを得ずして釣獲し能はざりき。又１隻の鰹魚舟出漁数日に亘り其位置を失し、且つ飲料水の欠乏に迫れるものに遭ふて、用水を給与し、塩屋岬灯台の正東90海里なるを告げて帰走せしめたり。

7月19日　午後北海道厚岸沖に至り、遂に全く無風となりしを以て、午後7時より汽走す。

7月20日　午前5時半根室港に投錨す。根室港外に於て恰も色(古)丹島に向け出航の得撫丸に遭遇せり。

根室泊中、水産組合に依頼し生徒に水産講話を聴かしめ、陸上見学をなさしむ。

7月22日　未明抜錨し、野付水道を航過してオコツク海に入る。此日館山に於て補充したる臨時水夫安田萬蔵脚気症に罹り状態不良なるを以て、根室にて下船せしむ。

是より連日濃霧軽風に順航し、海洋調査を施行しつつ、

7月31日　朝無事幌筵島村上湾に投錨す。此日日本漁業株式会社の塩運搬船未着なりしを以て、会社幌筵出張所より処用塩を領収し、上方ヤード及端艇を陸揚し、用水の補充をなす。

8月 1日　出漁準備成り、午後1時20分帆走、海峡を出て漁場に向ふ。

8月 2日　朝(カムチャッカ半島の)キシカ沖に至り試漁せしに、忽ち南風募り漂泊す。此日時々鱒の飛躍するを見る。

8月 3日　投錨、鱈釣実習をなし、360尾を獲たり。

8月 4日　南西の強風襲来し、また抜錨漂(躇)す。午後に至り稍凪ぎたるを以て、端艇２隻

を下し、日没時より正子まで鱒流網試漁を行ひ、鱒約200尾を獲たり。

8月 5日　早朝より正午まで鱈釣漁を行ひ、570尾を獲たり。午後より偏南の強風浪となりしを以て、午後1時抜錨、5時キシカ沖に至り17尋の所に仮泊す。

　此日臨時水夫山口定吉脚気症に罹り、辞職願出たるを以て下船せしめ、汽船便によりて帰郷せしむ。

8月 6日　釣魚を試みるに、鱈(タラ)甚だ少く、大鮃(オヒョウ)10数尾を獲たり。日没時より11時迄鱒(マス)流網漁を行ひしも、僅かに17尾を獲たるのみなりし。

8月 7日　南西の風浪甚しく碇泊に耐へざるを以て、抜錨装帆踟す。　躊

8月 8日　南西高浪甚しきを以て、クンガン沖5海里の処に仮泊して風浪を凌ぐ。

8月10日　風凪ぎたるを以て未明抜錨し、5時ビーツガ河沖に至り投錨し、6時半よりドーリー漁艇を下し、鱈釣実習を行ひ、1,851尾を獲、日没より正子迄流網漁を行ひしも、鮭1尾を獲たるのみ。蓋し漁期既に経過したるによるが如し。

8月11日　午前5時半南西約3海里の処に転錨し、鱈釣実習を行ひ、1,078尾を獲たり。日没時より蟹刺網漁を行ふ。

8月13日　未明蟹刺網を引揚げ、タラバ蟹260を獲、新記録を得たり。午前5時半約3海里南方に転錨して、鱈釣漁をなし、漁獲801尾、午後8時半南東約11海里の所に転錨す。

8月14-15日　南東の強風連吹の為仮泊す。

8月16日　風力稍減じたるを以て正午抜錨し、キシカ河口の南約10海里に転錨す。航途ビームトロール漁をキシカ河口流域に於て試みたるも鰈(カレイ)約300尾を獲たるのみ。日没より鱒流網漁を行ひしも、漁期既に去り1尾の漁獲もなかりし。斯くして当年鱒漁期終了前に到着し得たるも、屡南西風浪強かりしにより、其効果なきに至れり。

8月17日　午前5時抜錨南航し、10時投錨して鱈釣を行ひ、593尾を獲、予定数6千に達し、用塩亦尽きたるを以て、引上に決し、午後6時半抜錨幌筵(島)に向ふ。8時ビームトロール漁を行ひ、タラバ蟹100、鰈約1,000尾を漁獲す。8時半より帆走に変ず。

8月18日　正午より汽走し、午後5時幌筵島村上湾に投錨す。

8月19日　横浜竹内萬三所有鱈漁船妙榮丸船長稲葉作吉来船し、糧食に欠乏を来し本船に補充願出たるを以て、白米7俵を交付す。

8月21日　用水の補充並に陸揚せる端艇、ヤード等の搭載に従事す。

8月22日　出帆準備なる。正午占守島片岡湾に転錨し、生徒一同を上陸見学せしめ、4時半帰船を待って直ちに抜錨、幌筵海峡を出で、オコツク海に入り帆走に変ず。

　是より連日順風に快走する事5日にして、27日予定の鰊(ニシン)流網漁場(海豹島の東方)に到着したるも、荒天襲来の為、

9月 3日迄縫航捜索したるも一回も怪光を認めず。

9月 4日　天候快復したるを以て、怪光を認めざりしも日没より鰊流網試験を行ひ、ホシザメ1尾を獲たり。

9月 5日　前日よりも沿岸に近く進み流網漁を行ひ、小形鰊3尾及ホッケ魚2尾を獲たり。斯くして二百十日前後の天候連日険悪なりし為、遂に1回も怪光に出会せず、予定の試験を行ひ得ざりき。

9月 7日　午前8時風待の為、樺太大泊に寄港す。

9月 8日　北西の風を得、午前10半抜錨帆走す。日没能登呂岬を経過したる頃より偏東の暴風となる。

9月10日　風漸く凪ぎたるを以て、午後8時半より汽走に変ず。

9月12日　午前5時半小樽港に投錨す。

小樽碇泊中、本船は船底に付着したる海藻掃除、其他各部小手入をなし、炭水搭載及糧食の補充をなす。生徒には当地水産調査並に札幌見学をなさしむ。

小官は依命12日出立、函館に赴き、魯国領事と面会し、所要書類の交付を受け、15日朝帰船す。

9月17日　許可により、東北帝国大学農科大学水産学科講師黒田九萬男氏便乗す。

9月18日　午前8時半出帆、浦塩斯徳（ウラジオストック）に向ふ。連日天候平穏なりしを以て、航途屡海洋調査を行ふ事を得たり。

9月22日　無風となりしを以て、午前8時汽走に変ず。

9月23日　午前9時半浦塩斯徳に到着す。

浦塩斯徳碇泊中、帝国総領事、同館員、居留民団及同青年会並に浦塩市庁の熱誠なる歓迎を受けたり。殊に、露国官憲の多大なる好意により博物館、東洋学院、商業学校を__観し、且つ平素__観を許さざる軍港内及海軍船渠等を見学せしめられたり。

9月27日　午後3時10分抜錨、函館に向ふ。航途連日好天気にして屡海洋調査を施行せり。

浦塩往復の途中、日本海の烏賊は非常に豊富なるを認めたり。聞く処に拠れば、毎年新潟より浦塩斯徳に航する30屯大の帆船は塩を用意し、途中釣獲せる烏賊を塩蔵し、満船して帰るを常とすと云ふ。本船も亦往復とも毎日の如く200～300尾を釣獲せり。鯖も亦多く、屡大群を認め、且つ烏賊釣にて10数尾を釣獲せり。

10月 3日　順風なるも甚だ微弱にして予定日数も既に経過したるを以て、午前8時より汽走に変ず。

10月 4日　午前5時半函館に帰着す。

10月 5日　命により鎌田技手青森に出張す。

10月 6日　鎌田技手帰船す。

函館碇泊中、生徒一同堤商会の缶詰工場__観並に陸上見学をなさしむ。

10月 7日　午前8時抜錨、午後6時15分室蘭に投錨す。

室蘭碇泊中、生徒一同をして製鋼所__観及陸上見学をなさしむ。

10月 9日　東北帝国大学農科大学水産学科講師黒田九萬男氏下船す。

10月10日　石炭35屯及清水25屯を搭載す。午後3時半抜錨、4時半より帆走に変ず。

10月11日　風南東に回転したるを以て、午後7時40分より汽走に変ず。

10月12日　午前6時40分鍬ケ崎に入港、日和を待つ。

鍬ケ崎碇泊中、生徒をして水産学校見学をなさしめ、鎌田技手指導の下に当湾口の大謀網調査を行はしむ。

10月14日　生徒須貝實、喉頭炎症に罹り治療の為上陸願出たるを以て許可す。

正午抜錨、海洋調査に向ふ。往復共好天順風にて、

10月17日　無事調査を終了し、夜鮎川に寄港して、鯨解剖見学をなさしむ。

10月18日　天候不良の兆あり、午前6時半荻ノ浜に回航し、天候の快復を待つ。

而して本日及19日暴風雨あり。

10月20日　僅かに晴れたるも険雲飛散し、且つ気圧下降状態に在り。

渡ノ波水産学校長以下職員生徒合計77名来船。

10月21日　雨天にして強風あり。

10月22日　本船生徒一同、渡ノ波水産学校見学に赴きたり。夜に入りて全く静定したるを以て、出帆用意をなす。

10月23日　午前0時20分出港し、田代島より南東100海里間３点、更に塩屋埼に向って60海里間２点調査を遂げ、

10月24日　正午犬吠(埼)に至りて更に南々東に向ひ調査を続行中、時々鮪の飛躍するを見たり。而して同夜北東強風雨となる。是より館山に向て航行す。

10月25日　午前11時半館山に投錨す。

10月27日　本船漁獲鱈6,000尾を日本漁業株式会社出張員に引渡せり。

館山泊中、漁具・漁艇を陸上し、生徒の体格検査を行ふ。

10月29日　午前7時30分館山抜錨、午後2時品川に帰着す。

右(上)及報告候也

大正4年10月30日　　雲鷹丸船長　浅利孝爾

水産講習所長　下　啓助殿

◎航跡図添付